

尾鷲の祭り

12月31日放送

第35回目の放送は、尾鷲の祭りをご紹介します。

お正月は、故郷でのんびりと過ごすのもいいですね。
しかし、尾鷲のお正月はとっても賑やかなんです。
尾鷲の浦々の漁村では、大漁を願っていくつかの祭りが行われます。
祭りを楽しみに故郷に帰る方もたくさんいるんですよ。

尾鷲市九鬼町では、お正月に『にらくら祭り』と『鰯祭り』が行われます。
それぞれ別の祭りではあるんですが、連続して行われています。

祭りを仕切るのは、九木浦共同組合の皆さん。
村組と呼ばれる祭りの責任者、村田篤教さんにお話を伺いました。



12月中旬から正月の飾り・囃子が始まって、行事の主役である『賀儀取り』と呼ばれる弓結い神事の練習が27日から始まります。
飾り・囃子が始まった頃から、町はもうお祭り気分なんだそうです。
神様の飾りとして供えるサカキ・マツ・イセボ・ウラジロも、それぞれ山や畑に採りに行って準備をします。

九鬼町では、明治の頃から鰯の大敷を二畳張っており、その大漁を祈願したお祭りというのが『鰯祭り』なんです。
鰯祭りで行われる弓結い神事は中学生たちにやらしてもらおうんですが、その練習や祭事に関わるいろいろなことを、村田さんが3日かけて教えます。

そして、31日に予行演習をして大丈夫と判断したら、1月1日から3日まで中学生たちはお宮さんにこもり、そこで精進料理を食べ、朝と晩には海で『垢離掻き』をして、身を清めながら3日の鰯祭りに備えます。

一方、村田さんをはじめとする祭りの担当者の方々は、にらくら祭りの準備も並行して進めていきます。

にらくら祭りでは、大晦日の夜から『にらくら（泥田）』と呼ばれる三方を石垣で囲んだ場所に、薪を高く積んで火をつけます。

この火に当たると、一年中風邪をひかないとも言われているそうです。

焚き終わると、にらくらには炭が残ります。そこに海水をかけてどろどろにし、その真っ黒でどろどろの炭を使って相撲の土俵を作り、1月1日の本番を迎えます。

本番では、どろどろになったにらくらに俵を投げつけ、諸病災厄を取り除くという泥を投げ合う行事が行われます。

炭を使って作り上げた土俵では相撲がとられます。

正月ということもあって、皆さん晴れ着でにらくら祭りの相撲を見に来られるそうで、周囲に泥が飛ぶたびに女性の悲鳴が上がるのも賑やかになるなど、大変盛り上がる祭りになるんですって！

そうして、にらくら祭りが終わると弓結い神事などが行われる鯉祭りに移っていく・・・というわけなんですね。

にらくら祭りに続いて鯉祭りと、九鬼町の正月のお祭りは大晦日から1月3日まで続きます。

昔はもっと長い期間、お祭りをされていたそうです。

「九鬼の大切な祭りを、みんなの手ですっと守り続けていきたい」と村田さんはおっしゃられていました。





1月には梶賀町で『ハラソ祭り』が行われ、それが終わるといよいよ尾鷲の代名詞ともいえる『ヤーヤ祭り』です。

たくさんのお祭りがある尾鷲の町です。
皆さんもどうぞ、尾鷲へ足を運んでみてください。

にらくら祭りについて（尾鷲まるごと観光物産WEB）
<http://owasekankou.com/event/fuyu/000236.html>

九鬼町のHPはこちらから → <https://kukicho.jimdo.com/>